



2024年7月2日

各 位

会社名 美樹工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 岡田 尚一郎  
コード番号 1718 (東証スタンダード)  
問合先責任者 常務取締役管理本部長 魚澤 誠治  
電話番号 079-281-5151

### 中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2024年度を初年度とする中期経営計画（2024年12月期から2028年12月期）を策定いたしましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

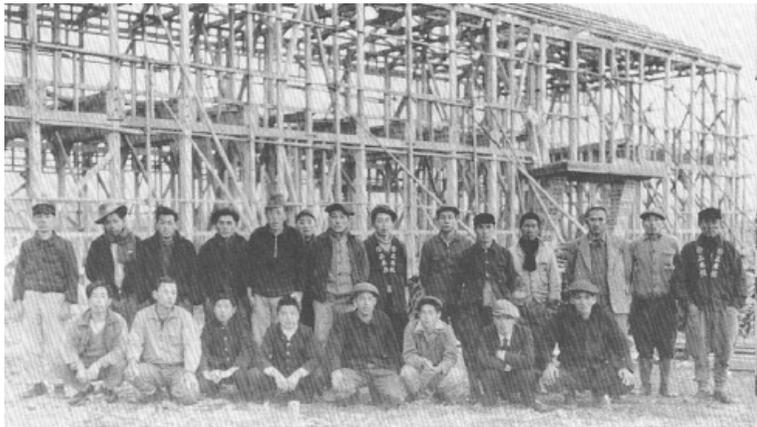
以 上



中期経営計画2024-2028 ならびに  
新・成長ビジョンMNC500について

2024年7月1日

# はじめに：美樹工業の歴史の中で忘れてはならない2つの転換点



初仕事 飾磨中部中学校舎建築 建前



大阪ガス姫路営業所（昭和25年）



美樹工業新社屋（昭和43年）



大阪ガス姫路営業所（昭和30年）



つくばメガソーラー（2012年）

美樹工業の前身となる「三木組」は昭和27（1952）年創業です。まず会社としての最初の大きな飛躍（転換点①）は、その4年後の昭和31（1956）年に大阪ガス株式会社からの信頼を受けて、指定工事会社になったことです。このことは、今も大切にしている「信用の高揚10ヶ条」の中に脈々と受け継がれています。そして2つ目の大きな飛躍（転換点②）は、平成24（2012）年にどんな大手企業よりも先駆けて、自社事業として日本で初めての「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（FIT法）」の認定第1号を受けたことです。このニュースは、大きな衝撃を持って全国に美樹工業の社名を轟かせました。創業以来、美樹工業は、建築工事・土木工事、導管（ガス）工事、設備工事、リニューアル工事、再生可能エネルギー関連事業など、様々に事業を拡大しながら、社会や暮らしの基盤をつくり続けています。

# 創業以来のあゆみ

## 会社沿革

当社は1952年に兵庫県姫路市に建築請負を主業に創業し、その後、設備工事業に進出、1972年には子会社にて住宅事業に事業を拡大しました。そして、2012年には太陽光発電事業に進出し、現在の事業内容となっております。



大阪ガス株式会社の  
指定工事会社となる

1956年10月

三木組を創業

1952年10月

美樹建設株式会社と  
美樹設備工業株式会社を  
合併、商号を美樹工業株  
式会社とする

1971年1月

美樹建設株式会社  
及び美樹設備工業  
株式会社を設立

1962年1月

大阪支店を開設

1988年3月

はりまハウジング株式会社  
(現セキスイハイム山陽  
株式会社) 設立

1972年3月

日本証券業協会に株式を店頭登録(04年にジャスダック証券取引所、  
13年にJASDAQスタンダード市場、22年4月に東証スタンダード市場に上場)

2003年10月

セキスイハイム山陽にて  
「セキスイツーユーホーム」  
の販売権を取得

2002年4月

茨城県つくば市に  
「美樹工業つくばメガソーラー発電所」  
を新設し太陽光発電事業に進出

2012年7月

東京支店を開設

2022年12月

新本社に移転

2021年5月



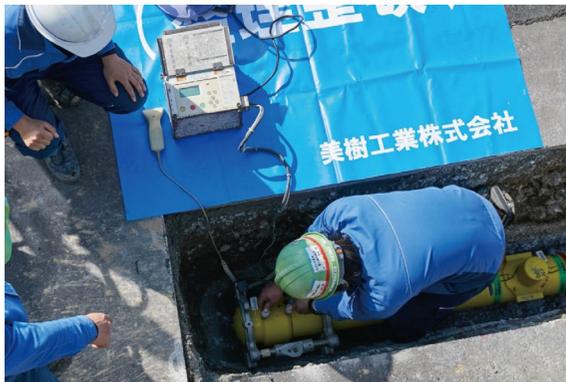
# 現在の美樹工業について（建築・ガス・リニューアル）



## 建築工事

医療福祉施設、商業・オフィスビル、官公庁舎、ホテル、生産工場、共同住宅など美樹工業は官民を問わずさまざまな建築物を手掛けています。

新築や改修はもちろん、上物のみの工事から総合的な施設開発まで幅広く対応。他の事業部と連携して造成工事や機械・器具の設置も行うことができます



## ガス工事

ガスを安全かつ安定的に供給するために、ガス管の埋設工事を行っています。

年月とともに老朽化したガス管の交換、ガス漏れが発生した際の緊急工事にも対応。

大阪ガスの指定工事会社として、1年365日、24時間体制で人々の暮らしと安全を支えています。



## リニューアル工事

スクラップ&ビルドを行うことなく、従来の構造体を活かして建物の資産価値を回復させるリニューアル工事。

美樹工業では内装・外装のリフレッシュから、建物の用途や利用目的を一新するリデザインまでさまざまな工事に対応しています

# 現在の美樹工業について（設備・土木・再生可能エネルギー）



## 設備工事

住まいやオフィスを快適な空間にするにはインフラの整備が欠かせません。  
美樹工業では設備工事を専門にする技術者が、給排水、空調、換気に必要な配管や機器の設置を行い、クオリティの高い住環境づくりをバックアップしています。



## 土木工事

道路、河川、橋梁、上下水道、公園といった公共インフラの整備とリニューアルを行なっています。  
近年は台風や地震などの自然災害が甚大化しており、それらの被害を最小限に抑えるために、防災工事や減災工事も行なっています。



## 再生可能エネルギー

美樹工業がその名を全国で知られるようになったのは、2012年に開設した太陽光発電所が「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（FIT法）」の認定第1号を受けたことでした。それ以来、発電所の施工だけでなく運営も自社で行い、蓄積したノウハウを新たな再生可能エネルギー事業への挑戦に活かしています。

# 2023年までの実績推移ならびに2024年度 業績予想の概要

- 2022年度より1棟売りを目的とした収益マンション事業を開始したことに伴い売上高は増加
- 2024年度は、上期に設計等計画期間を経て、下期に着工する大型工事（①岡山駅前再開発事業 ②西脇多可新ごみ処理施設）があり、2024年の業績には大きくは寄与しない（2025年以降に寄与）が中長期に注力すべき重要案件と位置付けて取り組む

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 計画
連結売上高	29,887百万円	27,260百万円	26,370百万円	30,758百万円	32,203百万円	28,000百万円
連結経常利益	1,371百万円	1,301百万円	1,323百万円	1,181百万円	1,330百万円	1,200百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,071百万円	795百万円	731百万円	734百万円	839百万円	700百万円
1株当たり当期純利益（EPS）	979.93円	727.79円	669.02円	672.07円	767.98円	640.41円
自己資本当期純利益率（ROE）	8.75%	6.10%	5.35%	5.14%	5.61%	5.46%

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 計画
自己資本	12,723百万円	13,367百万円	13,978百万円	14,612百万円	15,331百万円	15,750百万円
利益剰余金	11,311百万円	11,953百万円	12,575百万円	13,191百万円	13,833百万円	14,250百万円
自己資本比率	45.97%	49.00%	45.74%	47.14%	50.90%	52.56%

# 建設業界が抱える「2024年度問題」と美樹工業としての挑戦

2019年4月に施行された「働き方改革関連法」ですが、建設業界については5年間の猶予措置がとられていたため、2024年4月から、いよいよこれまでにない厳しい時間外労働の上限規制が適用されます。（いわゆる「建設業の2024年問題」）当社においても、この「2024年」をどのように迎え、どのように超えていくのかは、重要な経営課題であり、時間を掛けてさまざまな角度から検討を重ねた結果、2024年の一時的な沈み込みを次への成長に繋げていく契機とする以下の2つの方針を定めました。



高付加価値領域での取り組み：再開発事業



これまで大都市圏偏重の「再開発事業」が、「少子高齢化による人口減少」による行政主導の「コンパクトシティ」推進で、中堅地方都市にも拡大していくと考えられる。早期に「再開発事業」ノウハウを蓄積させ、当社に地の利がある案件には積極的に取り組んでいく。

高付加価値領域での取り組み：ゴミ処理施設



一般の建物と比べると圧倒的に厳しい使用環境のため建物の劣化速度が早いことと、厳しくなる一方の環境基準への対応が求められることから、ゴミ処理施設は今後旺盛な建て替え需要が見込まれる。早期に「ゴミ処理施設建設」ノウハウを蓄積させて、「ゴミ処理場建設なら美樹工業」というイメージを定着させるとともに、当社に地の利がある案件には積極的に取り組んでいく。

高付加価値領域での取り組み：臨海部での高潮対策土木工事



地震大国日本に於いて、災害対策事業はこれからますます大切な事業の一つになると考えている。瀬戸内海に面した阪神工業地帯や播磨臨海工業地帯を擁する姫路市を本拠地とするゼネコンの責務として海岸線沿いの高潮対策の土木工事を起点とし、災害対策事業の提案型営業を推し進めていく。

2024年は美樹工業の未来に繋げていくための次の一手に向けた「**ノウハウ蓄積元年**」と位置づける。

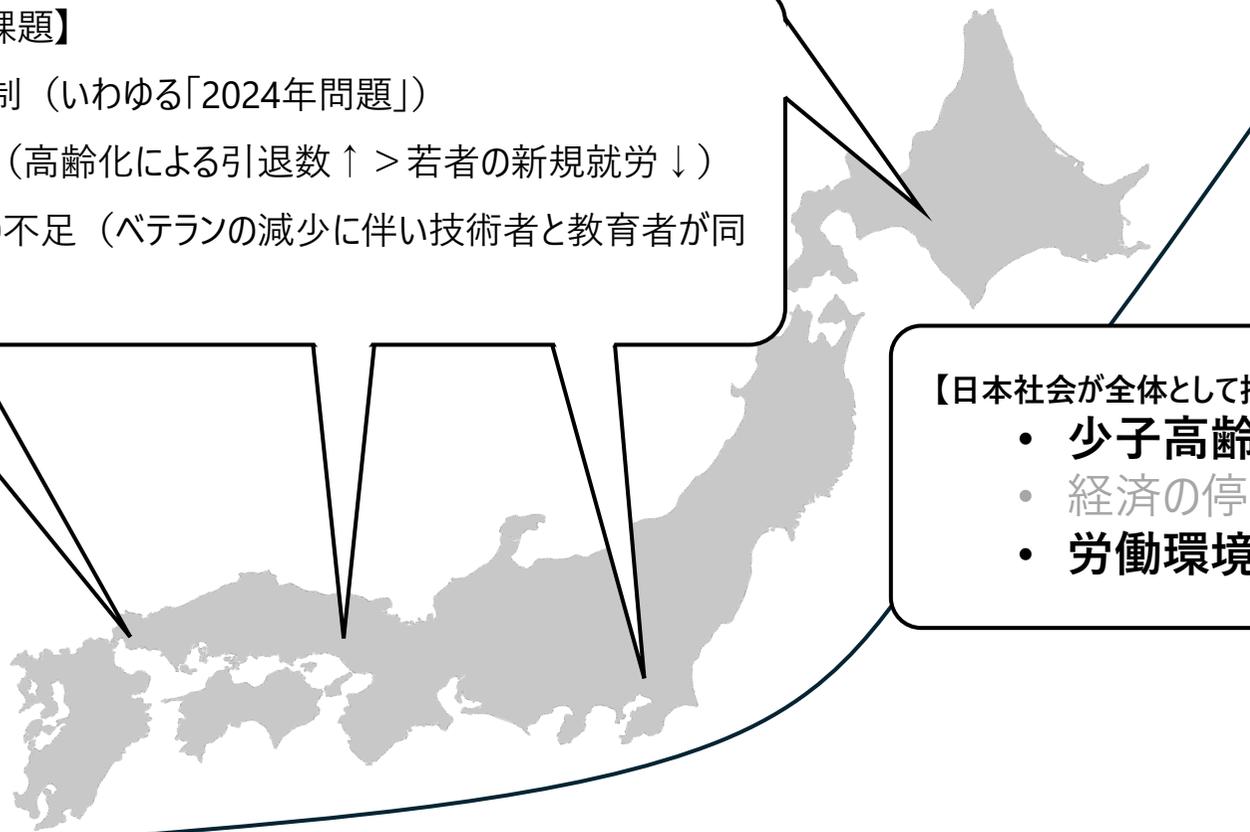
# 日本の建設業界を取り巻く今の環境と未来予想について

## 【建設業界が特有に抱えている課題】

- 時間外労働の上限規制（いわゆる「2024年問題」）
- 絶対労働人口の不足（高齢化による引退数↑ > 若者の新規就労↓）
- 技能者と教育者のWの不足（ベテランの減少に伴い技術者と教育者が同時に不足する）

## 【日本社会が全体として抱える課題】

- 少子高齢化による人口減
- 経済の停滞と格差の拡大
- 労働環境と働き方の改革



**これらの課題は、ほとんど「人材」問題に集約される。**

一般的にゼネコン業界は差別化が難しいと言われているが、他社との競合優位性を明確化し、ゼネコンへの求職者（新卒もキャリアも）からも、お客さまからも「美樹工業らしさ」で選んでもらえる、自らの提案で事業を生み出せる会社になることが重要。

# 「今回、中期経営計画2024-2028策定に至った思い」

建設業界は、バブル期のピークからは下回るものの、依然として約60兆円規模をもつ国内最大産業の1つです。その中で美樹工業は創業以来、多くのお客様や協力会社様との良き出会いと素晴らしい御縁をいただき、それに最大限お応えしようとする「あきらめない精神」でここまでやってまいりました。

さて、あらためて業界全体を見渡しますと、高齢化、人材不足、労働時間規制、資材高騰、急激な円安など、一朝一夕には解決困難な問題が山積みであり、大きな転換期を迎えていると感じざるを得ません。

これまで私たちは、誇りある技術屋集団として黙々と良き仕事をする事で信頼をいただき、お客様や地域や社会に貢献することを至上の喜びとしてきました。

しかし「これまでの当たり前が通用しなくなる時代」がすぐ近くまで来ていることが分かっている状況下で、これまで通りに仕事を続けているだけでは、私たち美樹工業に明るい未来は決して訪れないという大きな危機感をここ数年は強く抱いています。

いまこそ社員の一人ひとりが「正しい危機感」を持つことが重要であり、自ら考えや意志を持って「先手の策を打つ」ことこそが、美樹工業を信頼してご依頼をいただくお客様や、一緒になってお仕事をさせていただき協力会社様、そして地域や社会全体への責任であると思っております。

今回、経営幹部から中堅クラス、若手まで幅広い層から人材を選抜し、いま一度ビジネス全体を再検討して、美樹工業としては初めての取り組みとして、社内外に積極的に経営戦略の発信を行うべく「中期経営計画」を策定しました。

この「中期経営計画」の実現に向けて、美樹工業のDNAである「あきらめない精神」のもとで地道に、愚直に、お客様から信頼されつづけるために、未来へと着実に歩み続けてまいります。

美樹工業株式会社 代表取締役社長 岡田 尚一郎





# 2024年1月 新たに策定した美樹工業の「パーパス」 (社会的存在意義)

美樹工業はあきらめない。

日本にはおよそ四十七万の建設業社があるという。その中で、我々が世の中から必要とされ続けるために、大切にすべきものはなんだろうか？

創業以来のDNAに耳を澄ませて聞こえてきたのは、「お客様からの信頼」という8文字。

建物、インフラ、土木、設備、リフォーム、そして再生エネルギー。美樹工業には技術がある。あらゆる現場で、どんなに困難な工事でも誠実にやりとげてきた誇りがある。

だから美樹工業は、前へ進む。  
お客様から信頼され続けるために進み続ける。  
胸を張って、大地を踏み締め、一歩ずつ。  
人任せにせず、先頭に立つ決意で、一歩ずつ。

「ねばる」「しぶとい」「あきらめが悪い」  
それらはすべて我々にとっては誉め言葉だ。  
美樹工業はお客様のために、  
最後まであきらめない。



私達が向かう未来へ



中期経営計画策定  
に向けて

# 今後、磨きをかけていくべき3つの「美樹工業らしさ」

らしさ[1]

時代に先駆けて、再生エネルギー事業に取り組んだ **進取の気質**

らしさ[2]

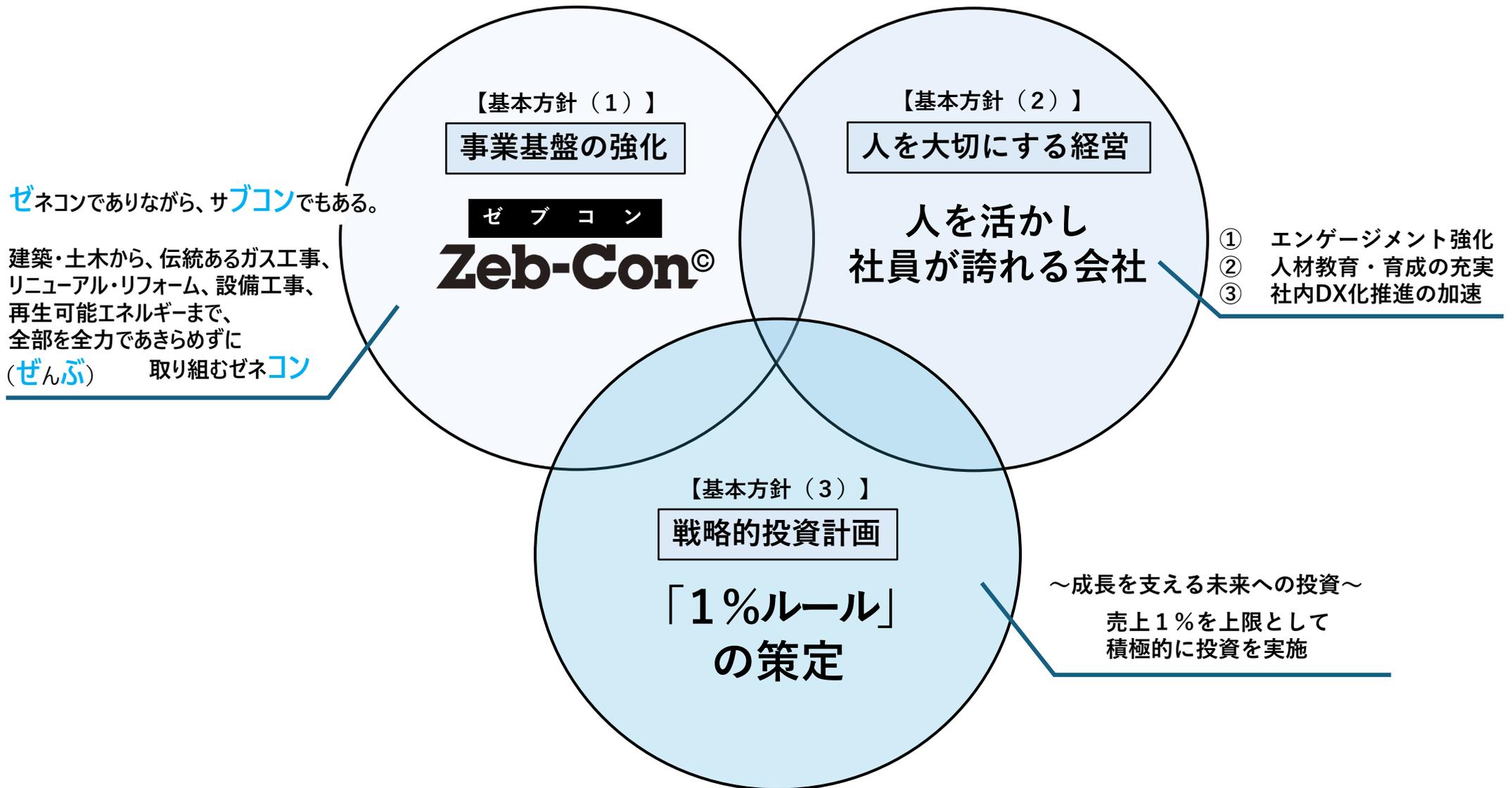
ゼネコンでありながら、自社内に **サブコン機能** を持つ高い専門性

らしさ[3]

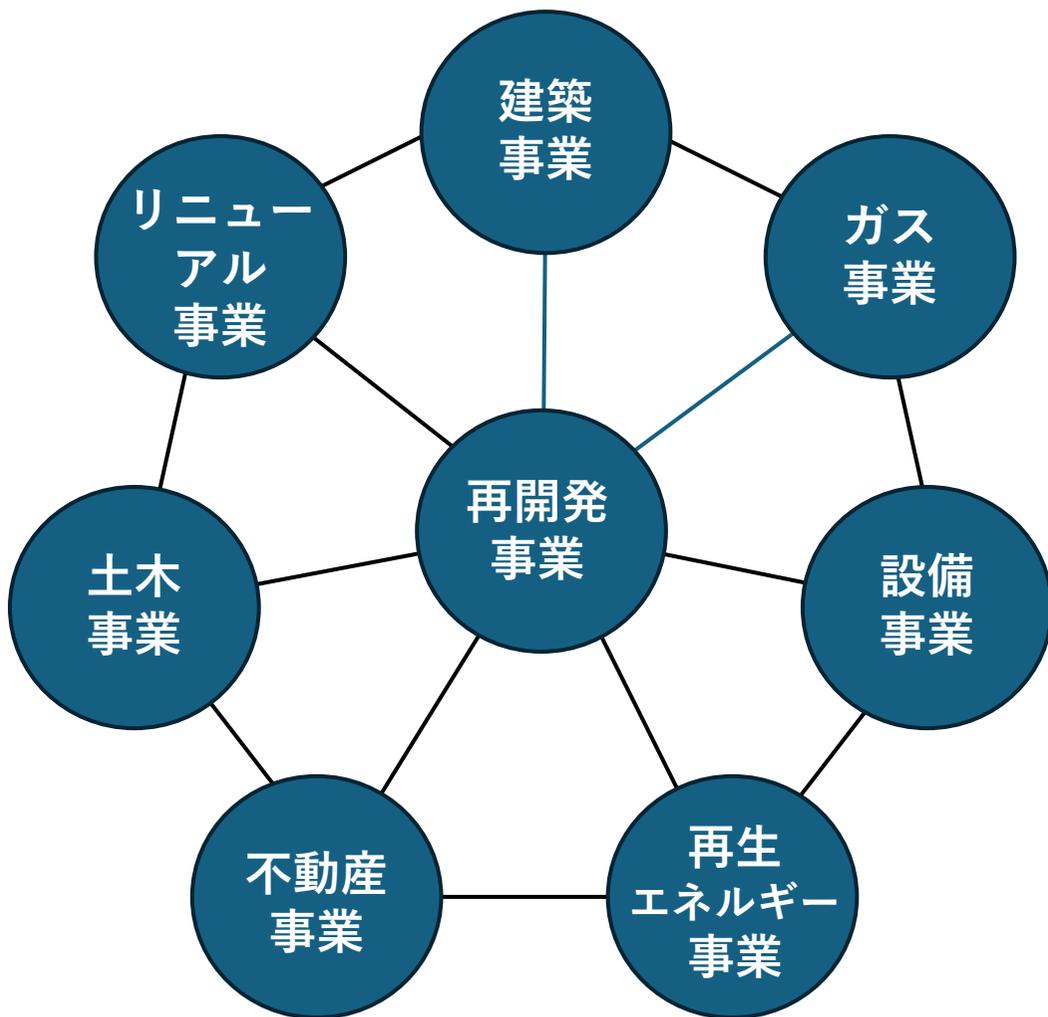
不動産、エネルギーなど **自社事業** の取り組みから得られたノウハウ

# 美樹工業 中期経営計画2024－2028の3つの基本方針

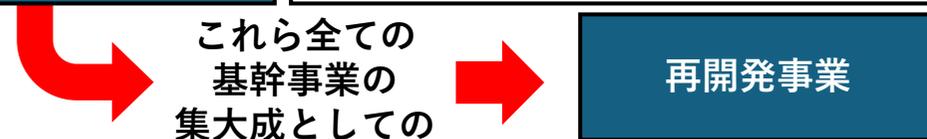
「事業基盤の強化」と「人を大切にする経営」を基本の2つの大きな柱として  
それを実現するため「戦略的投資計画」によって、確実な目標の実現をめざします。



# 中期経営計画 基本方針（1）「事業基盤の強化」



建築事業	設計施工案件の獲得、提案営業での単独受注、継続顧客の洗出しと関係強化
ガス事業	継続顧客からの安定事業、内管施工エリアの拡大、技術力を生かした新規顧客開拓
設備事業	病院、商業施設、リニューアル（設備部門を大阪支店に新設）設備設計部の新設
リニューアル事業	継続顧客との連携強化による関東エリアへの受注拡大
再生エネルギー事業	自社案件からのデータ活用と豊富な施工実績からの受注拡大。提案営業の拡大
土木事業	技術力からの工事評価による継続受注。ライフライン更新需要による受注の拡大
不動産事業	高収益物件への積極投資 ビジネスパートナーとの関係強化。不動産部門の立ち上げ



美樹工業の独自性表す  
新しい事業キーワード

専門性を強みに、  
総合力を発揮する

ゼブコン  
**Zeb-Con**®

# 中期経営計画 基本方針（1）

～事業基盤の強化～ 「再開発事業」 や  
「ゴミ処理施設」の取り組みについて



現在、岡山駅前にて第1種市街地再開発事業※（ホテル棟建設）、西脇市・多可町においてゴミ処理施設建設が進行中。両工事は当社の持つ基幹事業の**ぜんぶ**（**ゼネコン**であり**サブコン**機能を持つ）を絡ませる事業であり、今後、積極的に他の地域でも事業進出を目指していく。

※当社は、特定業務代行者として設計段階から協力しホテル棟の建設工事に参画いたします。

# 中期経営計画 基本方針（２） 「人を大切にする経営」

持続可能な建設業とお客様から信頼され続けるために、以下の３つの領域で「人を大切にする経営」を実践・強化していきます

## ①エンゲージメント強化

- 健康経営の継続的推進
- 職場環境改善
- エンゲージメントの継続的改善

## ②人材教育・育成の充実

- 人事評価・昇進制度の改革
- 研修制度の抜本的改革
- 資格取得支援

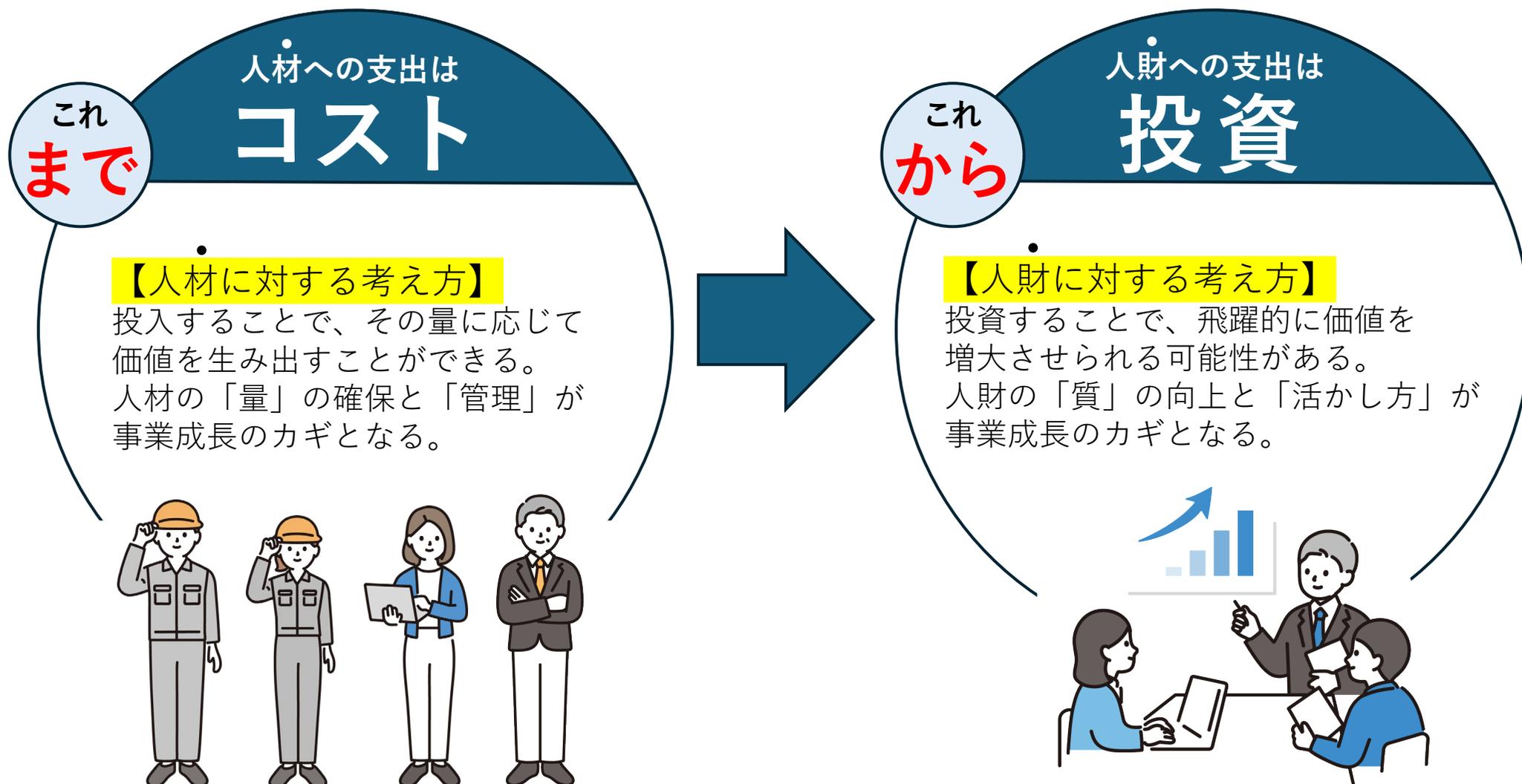
## ③社内DX化推進の加速

- 作業所支援システムやドローンの活用
- BIM/CIM/CADデータ
- STAR LINK（衛星通信サービス）

お客様から信頼される人財へ、社員にとって夢ある会社へ（ひとを活かし、人を大切に社員が誇れる会社へ）

# 中期経営計画 基本方針（２） 「人を大切にしている経営」

近年「人的資本経営」という考え方が非常に注目されていますが、当社では、人を「資本」と呼ぶことに違和感を感じますので、あえて「人を大切にしている経営」とシンプルで分かりやすい言葉に言い換えています。



# 中期経営計画 基本方針（2） 「社内DXの推進」について

建設業は、一品現場生産という特殊性から、仕事の俗人化や現場ごとに発生する固有の問題など非常に多く、DXが得意とするプロセスの平準化や一元管理が難しく、他業界に比べてもデジタル化が遅れていた現状があります。美樹工業もその例外ではありませんでした。しかし、今回の中期経営計画策定の中でも、あらためて浮き彫りとなった「人材問題」対応への打ち手の1つとして、また、そこから更に一歩踏み込んで、企業競争力強化の柱の1つとして、2024年以降、これまでの遅れを取りもどすべくDX化を一気に加速していきます。

## 業務支援 ツール



- コミュニケーション
- 人事・経理・営業系
- 調達・見積・原価管理
- 作業所支援システム
- ドローンやロボティクス

## データ マネージメント プラットフォーム



- ファイルサーバー
- データベース
- クラウドストレージ
- BIM/CIM/CADデータ
- IoTデータ

## デジタル インフラ



- パソコン
- ウェアラブルデバイス
- センサー・カメラ
- 有線/無線LAN
- 携帯通信（4G/5G）
- STAR LINK（衛星）

# 中期経営計画 基本方針（3） 「戦略的投資計画」

## 成長を支える未来への投資「1%ルール」について

今後5年で、新たな柱を形成するために、積極的な投資を実施します。  
売上の1%を上限として、積極的に投資を実施し「未来の価値」を創造します。

### ●スタートアップ事業・研究開発

社内公募によるプロジェクトチームを立ち上げ新規事業及び既存事業の深掘り

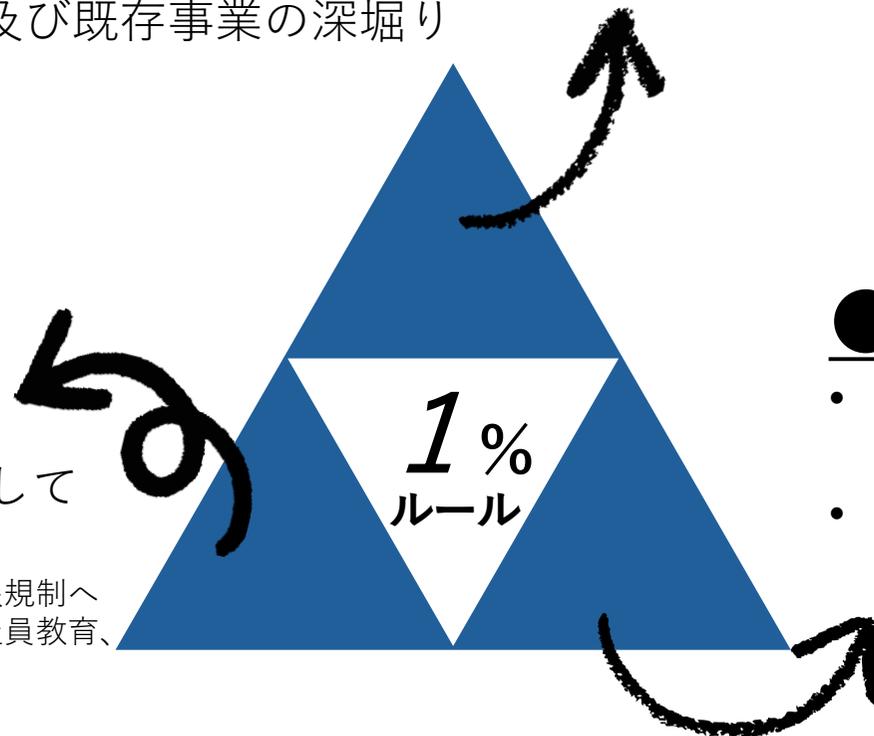
### ●人への投資

- ・ 人事部門の強化
- ・ まず社員や業務改善に対しての投資を行う。

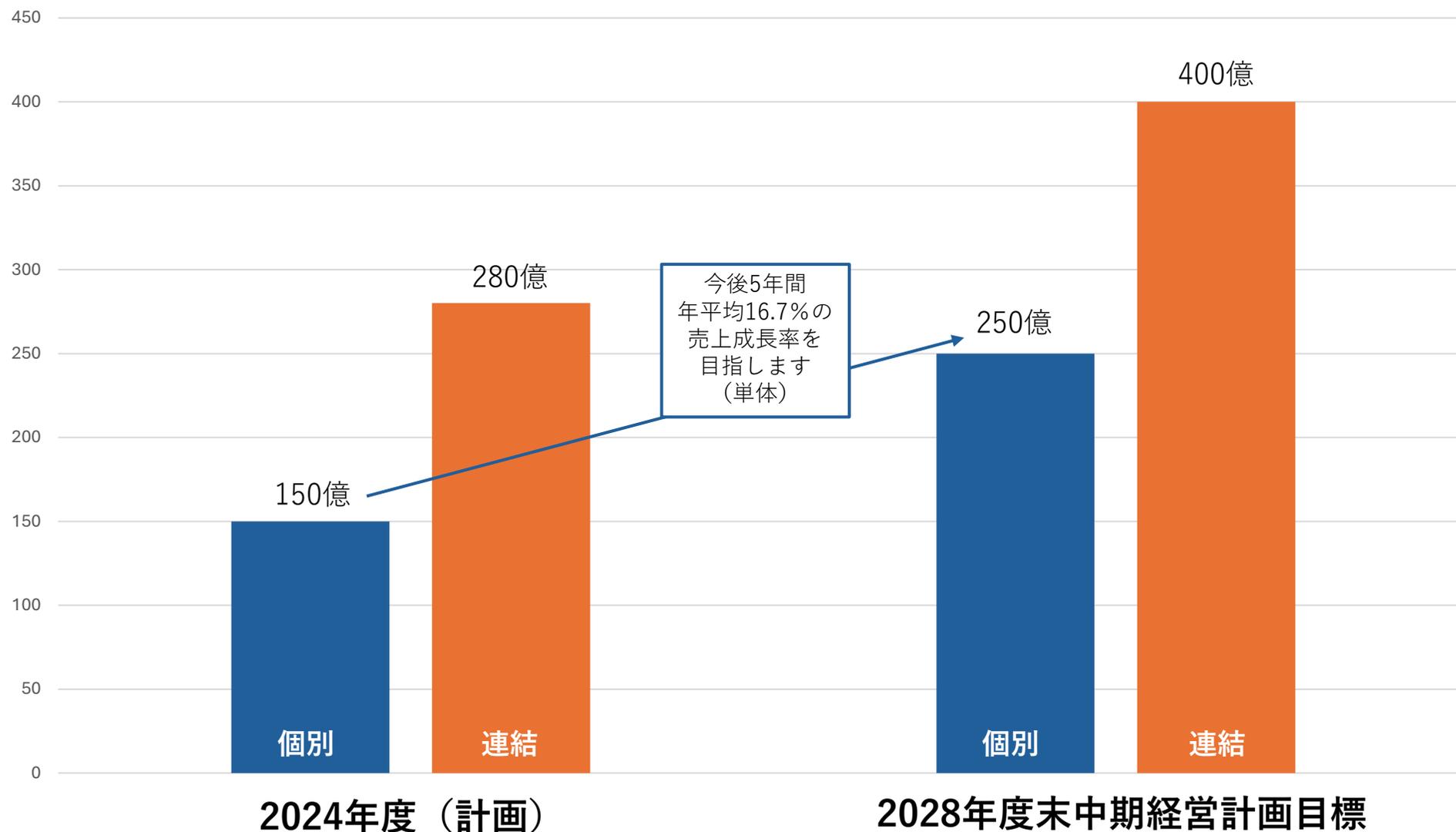
(年収アップ、人材募集、時間外労働上限規制への対応、人事評価制度改革、業務改善、社員教育、IT・建設DXへの投資など)

### ●事業領域の拡大

- ・ 積極的なM&Aによる事業領域の拡大
- ・ リニューアル部門、設備部門へ積極的な投資を予定。



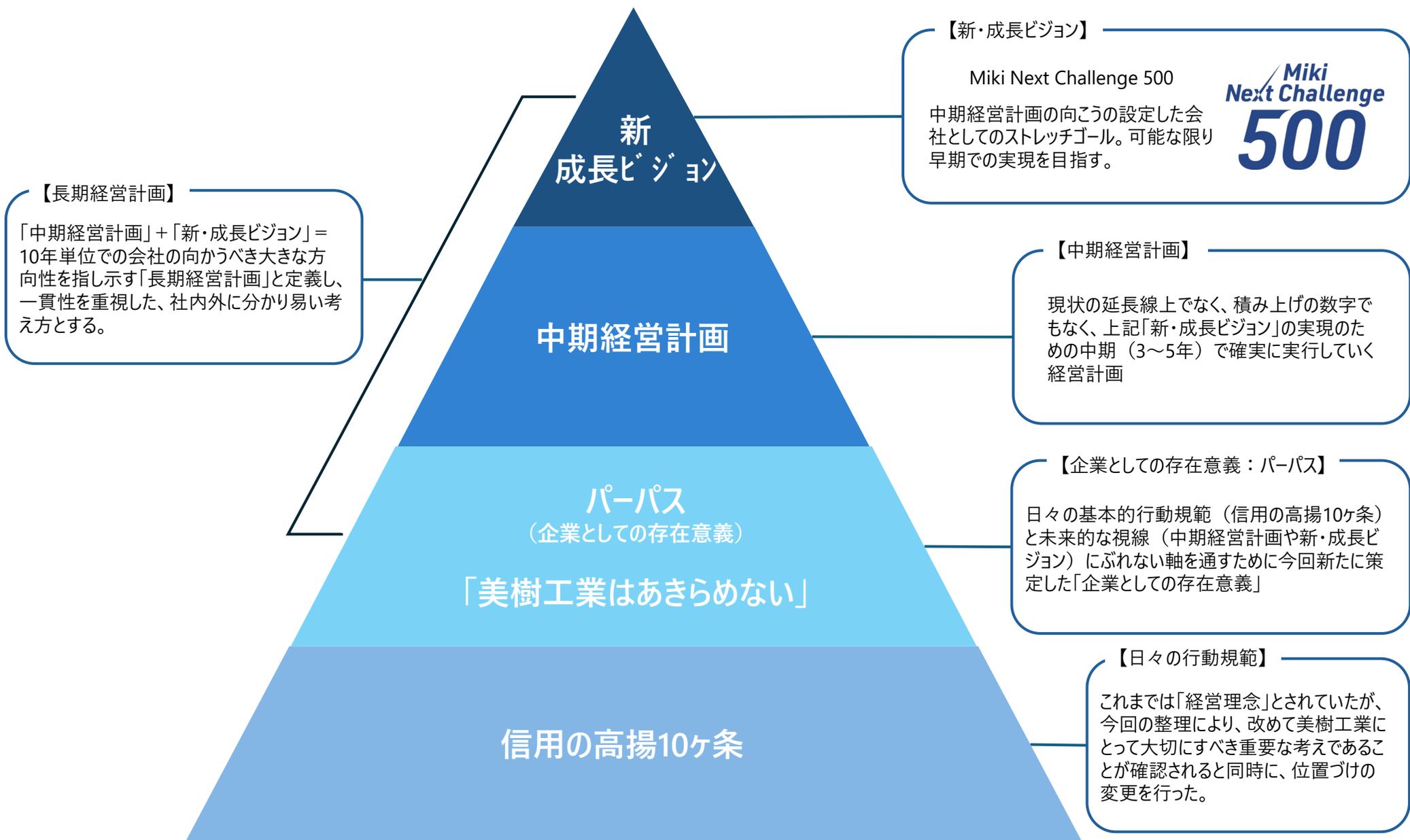
# 「中期経営計画2024－2028」として数値目標



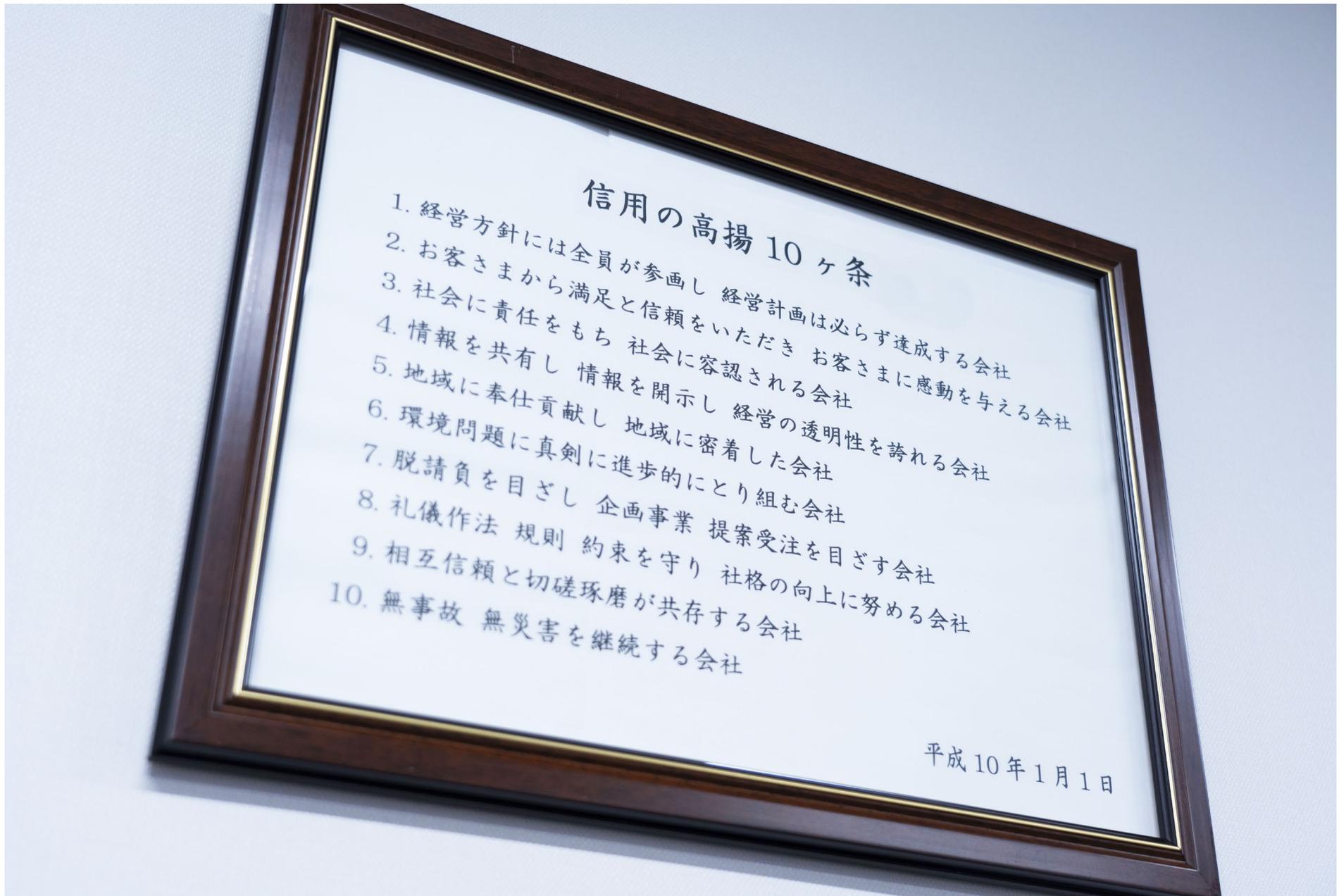
収益性 (営業利益率)	4.8%	4.3%
----------------	------	------

収益性 (営業利益率)	8.0%	5.7%
----------------	------	------

# 会社全体としての「美樹工業の基本的な考え方」の整理



# 美樹工業 行動規範「信用の高揚 10ヶ条」



# 新・成長ビジョン「Miki Next Challenge 500」について



中期経営計画の「先」に設定した会社としてのストレッチゴール。早期実現を目指す。

# SDGsに向けた取り組み

- 当社では、社内「SDGs委員会」を立ち上げ、以下の方針のもと、事業全般を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。（方針1）サステイナブルな未来に向け自社のあるべき姿を模索する／（方針2）解決すべき課題を見つけ重点的に取り組む
- 兵庫県SDGs宣言企業ゴールドステージ認証を受けています。

## 姫路市SDGs宣言書における当社の宣言



フードドライブの活用として“もったいないからありがとう活動”を社内で展開し定期的にフードバンクへの寄付を実施します。



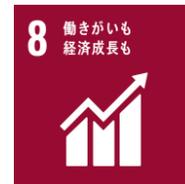
自社太陽光発電所で発電した電気やカーボンニュートラルガス（CNガス）を事業所で使用することで、カーボンゼロを目指します。



上下水道管・ガス管の埋設工事などライフラインに携わる企業として、生活インフラの維持、管理、促進に貢献します。



採用及び人事評価を男女平等に行い、女性の管理者への登用を積極的に実施、育児休暇延長取得・時短勤務等の導入により男女ともに働きやすい環境を構築します。



スマートワークプロジェクト活動と称して、日々の業務の見直し効率化を図ります。従業員からの要望・提案を吸い上げ、働きやすい職場環境を整備していきます。



お客様へ太陽光発電、風力発電等を計画、提案し再生可能エネルギーの施工を通じて温室効果ガス削減に取り組む事業を行います。

## 美術文化振興を通じた社会・地域貢献



三木美術館

姫路城を望む立地に美術館を設立し、保有美術品を広く公開することで、社会・地域に貢献しています

## 社会・地域貢献とスポーツ協賛



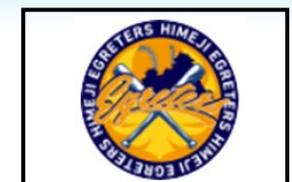
ASハリマアルビオン  
(女子サッカー)



神戸ストークス  
(男子バスケットボール)



アストライア  
(女子バスケットボール)



姫路イーグレッタース  
(野球)

- 兵庫県内の地域スポーツチームへの協賛を通じ、社会・地域に貢献しています

# 注意事項

---

本資料に掲載されている当社の業績に関する予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。

なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

---

当資料に関するお問い合わせ先

美樹工業株式会社 管理本部

TEL 079-281-5151

E-mail [ir@mikikogyo.co.jp](mailto:ir@mikikogyo.co.jp)

---